

# 生物多様性情報の一元化に関する取組について

環境科学研究所 ○岩崎 美佳、七里 浩志、村岡 麻衣子

## 1. はじめに

環境科学研究所では、「横浜市中期4か年計画」、「横浜市環境管理計画」及び「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」に基づき、生物多様性に関する取組を進めています。主な取組内容は、「専門家による定量調査」、「市民からの情報収集」及び「専門団体との連携」と、これらの調査等により得られた生物情報の「データバンク化」です。本報告では、データバンク化について、各取組の概要と併せて紹介します。

## 2. 生物多様性に関する取組の概要

### (1) 市内生物相調査

水域（河川・海域）調査については、昭和48年より調査を実施し、生物生息状況を把握するとともに生物指標による水質評価を行っています。今年度は水域のうち海域の調査を実施しました（図1）。

陸域調査については、近年市による調査は実施しておらずデータが不足しています。そこで、平成23年度に事業の検討を行い、平成24年度より調査を実施しています。今年度は鶴見川流域の3地区において調査を実施しています。



図1 生物相調査（海域）

### (2) 市民協働による生き物調査（図2）

平成25年度より、小学生5年生を対象とした生き物調査（こども「いきいき」生き物調査）を実施しています。自宅や学校周辺の身近な生き物調査で、横浜市全域で展開されることにより、広域の生物生息状況について情報収集することができます。



図2 こども「いきいき」生き物調査

### (3) データベースの提供

#### ・環境創造局生物調査報告書リスト

環境創造局（旧環境保全局、下水道局、緑政局）が行った生物に関する調査報告書を一覧にまとめ、平成25年7月よりYCAN（庁内LAN）による共有を始めました。

#### ・水域生物相調査結果データベース<sup>1</sup>

水域の生物相調査結果のうち河川の魚類、河川の底生動物、海域の魚類及び海岸動物について、平成25年3月より環境科学研究所 Web ページにて利用承認申請方式によるデータベースの提供を始めました。

#### ・川の生き物調査地点マップ<sup>2</sup>（図3）

水域の生物相調査結果のうち河川の魚類について、WebGIS「よこはまっぶ」を利用し、河川の調査地点紹介マップとして、平成25年7月より横浜市の Web ページにて公開しています。



図3 川の生き物調査地点マップ

### 3. 生物多様性情報の一元化

生物多様性に関する情報を継続して把握することは生物多様性の保全のうえで重要です。また、行政機関・研究機関・市民などの様々な主体が把握している生物多様性情報を相互利用し、共有化を促進することが必要です。

生物相調査、市民協働調査等により得られる生物情報を一元化するにあたり、「生物情報データベースの構築」、「市内生物情報の集約」及び「生物情報公開ガイドラインの策定の検討」に取り組んでいます。

#### (1) 生物情報データベースの構築

横浜市では、平成 24 年度より、地球環境未来都市研究会生物圏研究部会<sup>3</sup>の枠組みの中で、データバンクのあり方・構想について検討を進めています。

生物情報データベースの構築については、環境省「いきものログ」<sup>4</sup>の動向を踏まえ検討を進めています。また、生物情報をデータベースへ登録、参照するシステムについて開発を進めています(図 4)。システムは生き物観察会や生物調査等での利用を想定しており、市民、専門家等における実用的なシステムとなるよう、フィールドでの検証も行いながら検討を進めています。

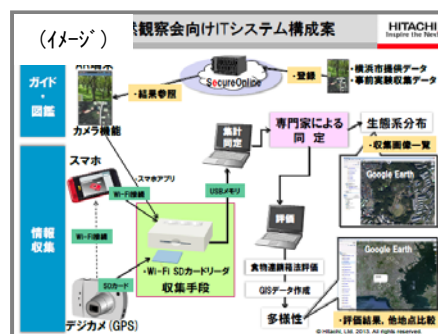


図 4 生物情報登録、参照システム

#### (2) 市内生物情報の集約

横浜市が実施する(した)生物調査について、いつ、どこで、どのような生物を対象とした調査が行われたかを集約したデータベースを作成、共有することにより、生物生息状況の把握や環境影響評価における文献調査への活用など、情報の積極的な活用が期待されます。

すでに市内で共有している環境創造局生物調査報告書リストについて、最新の情報を共有するため毎年度更新を行います。また、他局で保有している生物調査報告書については、市内関係部署とともに年度内の集約を目指して枠組みづくりに関する検討を進めています。

#### (3) 生物情報公開ガイドラインの策定の検討

横浜市が取得した生物情報に関する取扱い、情報公開及びデータベースの構築にあたり、ガイドラインの整備が必要です。レッドリスト等掲載種、オープンデータの時流等を勘案し、国の動向をふまえ、市内の関連部署と連携して検討を進めます。

### 4. おわりに

生物多様性情報を一元化することにより、施策立案や調査研究等の目的に応じて生物情報を効率的、効果的に活用することができます。今後は、生物情報登録、参照システムのパイロット版による生物調査等の実施、今年度生物相調査の結果を活用したデータベースの構築、生態系評価手法について、産学官の連携により検討を行い、生物多様性情報の一元化を進めます。

<sup>1</sup> <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/shiryo/databank/datafile.html>

<sup>2</sup> <http://gistat.city.yokohama.lg.jp/yokohamap/php/view/map.php?mapid=188>

<sup>3</sup> 生物生態系データベース、ICTによる市民参加手法の構築について検討する産学官の連携コンソーシアム。

<sup>4</sup> 環境省が実施した生物調査データのほか、専門家や地方自治体、全国各地の市民から集めた生物の情報をまとめてデータベース化し発信、共有するシステム。β版が平成 25 年 10 月に公開され、一次・二次公開を経て運用されます。